

第  
11  
回

100文字作文  
静岡県  
青少年赤十字  
コンクール作品集





# はじめに

赤十字は「人道・博愛」を基本理念として掲げ活動しています。その事業のひとつである青少年赤十字は、やさしさと思いやりの心を育むことを目的に1922年に創設され、今年で創設100周年を迎えました。

今年度の本コンクールは、例年募集している「100文字作文」、「ハートラちゃんのお絵かき」に加え、100周年を記念して、やさしさと思いやりをテーマに原稿用紙3枚程度の「青少年赤十字創設100周年記念作文」を募集しました。

その結果、「100文字作文部門」では31校1,455点、「ハートラちゃんのお絵かき部門」では3園67点、「青少年赤十字創設100周年記念作文部門」では4校75点の応募をいただきました。

この度、その中から選ばれた入賞作品を、作品集としてまとめました。そこに表現された一人ひとりの素直な思いや生き生きとした姿を感じていただきたいと思います。

今後も、作品に込められたやさしさと思いやりの心を大切にし、時代の変化に応じて一人ひとりが、「気づき」「考え」「実行」していくことを期待しています。

応募にあたり、ご指導いただきました先生方、見守つてくださったご家族の皆様、審査いただきました選考委員の皆様に心から感謝申し上げます。

# 第11回静岡県青少年赤十字100文字作文コンクール実施要項

△100文字作文・ハートラちゃんのお絵かき・青少年赤十字創設100周年記念作文

## 1 目的

青少年赤十字加盟校（園）の園児・児童・生徒が、日々の生活や体験したこと振り返り、自他のよさや、体験して得た価値に気づくことで、やさしさと思いやりのこころを育む。

## 2 主催

日本赤十字社静岡県支部  
静岡県青少年赤十字指導者協議会

## 3 募集内容・応募資格

### (1) 100文字作文部門

ア 内容：次のテーマについて、100文字程度の作文を書く。

- ・「いのちや健康の大切さについて感じたこと、考えたこと、体験したこと」
- ・「ボランティアについて感じたこと、考えたこと、体験したこと」
- ・「海外の出来事で関心のあること」

### テーマ

ウ 応募形態：八つ切りの画用紙  
ハートラちゃんお絵かき部門応募票（様式2）を記載の上、裏面に貼りつける。  
年長（年少・年中）

### (3) 青少年赤十字創設100周年記念作文部門

ア 内容：次のテーマについて、原稿用紙（400文字詰）3枚程度の作文を書く。

- ・「人のやさしさや思いやりに触れてうれしかったことや、人にやさしくして喜ばれたこと」

### テーマ

イ 応募資格：静岡県内の青少年  
赤十字加盟校の児童・生徒

ウ 応募形態：100文字作文部門  
応募票（様式1）

ウ 応募形態：原稿用紙（400  
文字詰）3枚程度  
イ 応募資格：静岡県内の青少年  
赤十字加盟校の児童・生徒

(2) ハートラちゃんのお絵かき部門

ア 内容：絵本「ハートラちゃんのおはなし」の読み聞かせや読書を通じて、やさしさや思いやりのあるハートラちゃんを自由に表現する。

※マジック・クレヨン・ペステルなど使用するものは問わない。

イ 応募資格：静岡県内の青少年赤十字加盟園の園児（年少・年中・年長）

## 4 応募方法

- (1) 応募用紙（様式3）を作成の上、学校（園）ごとに作品を取りまとめ、下記応募先まで提出する。  
(2) 応募は1人1作品、未発表のものに限る。

## 5 応募期間

令和4年7月19日(火)から  
9月14日(水) ※当日消印有効

## 6 審査

審査は、主催者及び主催者が委嘱する選考委員が行い、結果は、11月上旬頃に通知する。

## 7 入賞

### (1) 100文字作文部門

支部長賞 3名  
指導者協議会長賞、有功会長賞、  
事務局長賞 各1名  
優秀賞 15名  
佳作 24名

### (2) ハートラちゃんのお絵かき部門 ハートラちゃん賞 5名

### (3) 青少年赤十字創設100周年記念作文部門

青少年赤十字創設100周年  
特別賞 3名

※応募数によつては、表彰者数を変更する場合あり。

## 8 表彰

- (1) 100文字作文及び青少年赤十字創設100周年記念作文部門の上位入賞者については、令和4年11月に開催する「青少年赤十字創設100周年記念静岡県大会」において表彰する。

## 9 留意事項

- (1) 応募作品は、基本的に返却しない。  
(返却希望の場合は、支部あて連絡する。)  
(2) 入賞作品は、日本赤十字社静岡県支部が作成する印刷物やホームページへ掲載する。



「ちいさなあかちゃん」

静岡市立井宮北小学校 一年

古本 彩鈴

わたしは一〇〇〇ぐらむすくなくう啼  
れて、たくさんひとにみるくをつくつ  
てもらいだつこもしてもらいました。

おおくのひとにわたしのいのちをつな  
いでもらいました。

わたしはいま一ねんせいです。ありが  
とうございました。

## 選考委員による講評

彩鈴さんは、多くの人から愛情をもらい、ここまで成長できたことに気がつくことができたのですね。

誰しも周りの人に支えられて成長していくことを、改めて感じさせてくれる作品です。

みなさんの周りにも感謝を伝えたい人がいるのではないか。どうか。



## 支部長賞

「笑顔の贈り物」

静岡県西遠女子学園中学校 一年

小池 穂花

病氣で困っている子の助けになりたい。その思いから私はヘアドネーションをする決意した。ウイッグを作れる長さまでのばすこと2年。大変だつたが、その先の笑顔を想像すると、頑張ることができた。私の髪で多くの人が笑顔になれますように。

## 選考委員による講評

ヘアドネーションは、寄付された髪の毛で医療用ウィッグを作り、事故や病気で毛髪を失った子どもたちに提供する活動です。

「笑顔」を原動力に自分ができることを考え、行動し、感じたことを表現した作品です。

穂花さんの人を思う気持ちや自分が働きかけることで得る喜びが伝わってきます。実際に行動することから、その価値に気づき、自分自身の生活をより豊かにしていくのでしょうか。

今後も、青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行」していくことを大切にしていてほしいと思います。



## 支 部 長 賞

### 「十八歳の誕生日」

静岡県立浜名高等学校 三年

遠山 琴々乃

誕生日の新聞を私は毎年保存している。去年は美しく鳴くキツツキの、一昨年は近所の百貨店の営業再開の記事だった。

今年の誕生日。私が大人に一步近づいた日の新聞は、東ヨーロッパで何十人の子供たちが大人になれなかつたことを伝えていた。

## 選考委員による講評

新型コロナや海外での紛争など、社会状況、海外情勢への不安や希望について言及する作品が多数みられるなか、この作品からは、言葉の持つ力、文章としての魅力をより強く感じさせられました。

よく「一般的」な言葉を使いながらも、「18歳の誕生日」というフィルターを通して、「日常」と「非日常」、「平和」と「紛争」、「子供」と「大人」という何気ない「対比」からは、遠山さんの素朴ながらも、芯のある「想い」の存在を感じることができました。



「大事なものは？」

「大事なものは？」

小島 凜音

焼津市立豊田小学校 六年

「そう聞くと、

「命。」

みんなそう答える。

「なんで？」

「それは…。」

なんでだろう。命が大事なのは分かる。

理由はあまりわからないけど。でも、わ

からないほどの大きさがあるのだと思う。



## 有功会長賞

「身近に居てくれる大切な人」

沼津市立第二中学校 三年

杉山 拓未

今年で父親が3回入院した。

あたりまえに居た存在が消えてしまう

ことを実感した。とても不安だった。退

院した父親の顔を見ると自然に笑顔になつて安心した。

僕は、今居る大切な人の時間を今まで以上に大切にしたいと思つた。



「手紙」

静岡県立島田商業高等学校 二年

中津川 莉央

初めての手紙を書いた。コロナで会え  
ないかわりに書いた。拙い文章だつたが、  
祖母は何度も「ありがとう。」と伝えて  
くれた。いつも明るく元気な祖母の入  
院は、私にとって衝撃的なニュースだつ  
た。そんな祖母の笑顔を私は忘れないだ  
ろう。



## 「命の大切さ」

焼津市立豊田小学校 六年 佐塚 凜虹

突然のことだつた。じいじがいなくなつてしまつた。幼かつた私は、ひたすら泣いた。それから私は、じいじの分も生きようと思った。命を大切にしようと思った。

空を見上げると見てくれているみたいで、がんばる勇気がもられた。



## 「当たり前だと思っていた事」

島田市立島田第四小学校 六年 萱沼 真央

今日も当たり前にご飯が食べられて、安心して寝られて、家族が側に居ます。でもウクライナではそんな当たり前の毎日が奪われている事が信じられないし心がギュツとなります。みんなが太陽の下を安心して歩ける日が一日でも早く来てほしいと思います。



## 「命は大事」

島田市立島田第五小学校 四年 原川 紗奈

水道の排水口にクワガタが、はさまっていた。わたしは、すぐにつくづくと、クワガタを救い出し、草むらにそつと置いた。

すると、元気を取り戻し、

「ありがとう。」

と言つて飛んでいった。小さな虫でも大事な命。



## 「大切な命を守るために」

浜松市立伎倍小学校 五年 安間 愛莉

大切な命を私たちはどういうふうに守れば良いのか考えてみました。この世の中には自ら命を絶つてしまう現実が少なくありません。その原因は孤独な気持ちで支えてくれる人がいないからです。そんな人たちのそばで寄り添つてあげられるような人になりたいです。



## 「ぼくのいのち みんなのいのち」

浜松市立北浜北小学校 五年 鈴木 悠聖

命はたつた一つしかないから大事にしてねと母は言う。ぼくは小さい頃からぜんそくの病気があり特に冬はせきがでて苦しい時があった。サツカーレを続ける事で体が強くなり苦しい思いがへつた。自分の命を大事にする様にみんなの命も大事に出来る人になりたい。



## 「10%の奇跡」

三島市立北上中学校 一年 岩崎 菜穂

私の飼い猫のモコは、保護センターにいた三毛猫だ。保護センターにいる猫が殺処分されてしまう確率は約九〇%。そんなモコは、私達と出会ったのだ。

モコ、たつた一つの尊い命を私達に預けてくれてありがとう。

そして素敵な出会いをありがとう。



## 「ボランティアの意味」

沼津市立第二中学校 三年 鈴木 来弥

ボランティアは何のためにするのか。僕はボランティアの意味を知らぬまま海辺の清掃に参加した。別の日、僕は清掃をした海にもう一度訪れた。

「きれいな海だね」

誰かの声が僕の耳に入ってきた。僕はうれしくなった。その時ボランティアの意味に初めて気づく。



## 「届いてほしい私の気持ち」

静岡市立蒲原中学校 三年 若月 陽菜乃

様々なお店で海外の子供たちへの募金をよく見かける。中学生の私にはたくさんのお金は募金できないけど、募金をするという行動、その気持ちが誰かの支えとなると私は思う。  
募金を通して届いてほしい私の気持ち。



## 「あの子」

静岡市立蒲原中学校 三年 清野 日菜子

私が六年間使っていたランドセルは、今、どこの国の、どんな子が使っているのだろうか。

幼い日の私が、苦楽を共にした、こげ茶色のランドセル。友達との思い出がつまつたかわいいランドセル。

あの子にも、思い出をたくさんつめてほしい。



## 「苦しみのない未来へ」

静岡市立蒲原中学校 三年 田中 桃葉

なぜ誹謗中傷するの？その人が羨ましいの？他の人も悪く言つてているから？

もしその人が悪いことをしていても、人を傷つける言葉を簡単に言つてはいけないと思う。本当のことかどうかかも分からぬのに。

優しい言葉で溢れる、幸せな未来をつくろう。



## 「交通安全」

静岡県立浜名高等学校 三年 高瀬 柚乃

黄色の旗それは子供を守る印。毎日居る小父さんに血の繋がりなんてものは無いけれど、いつしか居ないと不安になる存在になっていた。

「いつてらっしゃい。おかえり。」その言葉がこんなにも温かいものなんて小学生はまだ知らないだろうな。



## 「一人の一歩」

静岡県立浜名高等学校 三年 大畑 奈菜子

満員電車にお年寄りの方が乗ってきた。

「座りますか。」

このたつた六文字が言えなかつた。たつた一言で誰かを助けられるかもしれない。一人一人の一歩が小さくとも、皆が踏み出せば世界の大きな一步へとなる。はじめの一歩が大きな一步。



## 「忘れられないこと」

静岡県立浜名高等学校 三年 梶 智菜

私が所属する吹奏楽部のコーチが亡くなりました。亡くなる三週間前、私達は魂のレッスンを受けました。私達が音を奏でるたびに音楽は心、心で奏でると、何度も何度もおっしゃいました。コーチが命をかけて教えてくださったことを私達は一生忘れません。



## 「ひろいもの」

静岡県立浜名高等学校 三年 山本 結士

「ごみひろいをしていたら、さいきんイイコトあつたよ。」  
「かそーか。ボクがひろつたのはごみだけじゃなかつたんだね。」  
「そーかそーか。ボクはごみといつしょに、「運」もひろつてい  
たんだね。そう感じた、十年前の僕。」

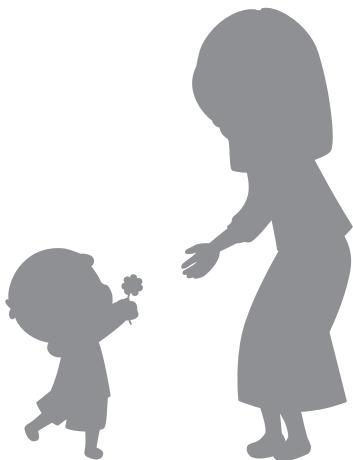


「命」

静岡県立浜松東高等学校 三年 石川 智恵

初めて握った妹の手の温かさは今でも鮮明に覚えている。母の腕の中で力強く生きているんだ。

十才の私は命の強さを知った。傍にいて初めて命は繋がりだと知った。世界のみんなが優しさで繋がることで命が美しく輝いて見える。



## 「水と命と地球を守る」

静岡市立井宮北小学校

四年 青島 吉平

世界の水について考えた。韓国では大洪水、イギリスではテムズ川の源流がかれてしまつた。

水は生きていくために必要だ。天気にまかせておいては何も変わらない。

気温が上がらない方法をみんなで考え、世界の人々が助け合わなければ地球は守れない。

## 「命の火」

焼津市立豊田小学校

六年 田中 心葉

命は一つの火だと私は考えている。そして、人それぞれ火の大きさはちがう。メラメラと燃え上がる火もあれば、今にも消えそうな小さな火もある。さらに、火は弱く、もろい。だからこそ大切にしていかなければならぬと私は思っている。

## 「小さな命」

焼津市立豊田小学校

六年 松下 美柚希

自分より小さな体でも一生けんめい働くアリ。鼻を頼りにして食べ物を探す。小さな体と小さな命で小さな幸せを作る。健康で生きていられることに感謝し、毎日精一杯生きることが大切で、小さな命でも大きな命でも幸せの価値は一緒。

## 「あさがおさんだいすき」

島田市立島田第四小学校

一年 杉本 知咲良

わたしのあさがおは、はなのはなが、ちがつたよ。ぴんくとあおだつたよ。みどりのみが、ちゃいろになると、たねができる。あさがおさん、まだ、さいてるね。

九がつ。たねのかずを、かぞえたよ。百五こだつたよ。あさがおさん、だいすき。



## 「いのちや健康の大切」

島田市立島田第五小学校

四年 鈴木 結心

わたしはいのちや健康の大切さについて感じていることがあります。それは、いのちがあって自分が健康だから生きられているんだと感じています。これからも、いのちや健康の大切について考えたり、健康で生活していくみたいし、手あらいうがいをしつかりやりたいです。

## 「自分のいのち」

浜松市立北浜北小学校

二年 塩貝 結衣

学校で、先生が

「いのちは、一つしかありません。自分のいのちは、自分でまもります。」

と言いました。わたしは、だれかにまもってもらえばいいと思っていたので、びっくりしました。これからは、自分で、まもろうと思いました。

## 「おじいちゃんが死んで気づいたこと」

浜松市立伎幡小学校

五年 佐野 日勇

おじいちゃんが死んだ。  
ぼくは、全然実感がわかなかった。

おじいちゃんともう話せないと思うと悲しくなった。  
でも一つ気づいたことがあります。それは命が大切なこと。だからぼくは一生けん命生きていく。

## 「みんなしあわせになれ。」

浜松市立北浜北小学校

三年 大城 遥斗

世界では今、大へんなことに

なっている。せんそうや感せんしょうで多くの人がこまつている。ぼくはとても悲しい。だから、ぼくはぼくのできる事をして人助けをしたい。少しでも多くの人をしあわせにしたい。しあわせになつてほしいとぼくは思う。

「スターがいるから私たちがいる。」

三島市立北中学校

三年 藤井 友里

誰かのいのちのために働いている人がいる。俳優や歌手のような有名人ではない。しかし彼らは今、世界中のスターだと思う。そんなスターに支えられて私たちの健康やいのちは守られている。

苦しくても辛くとも働き続ける彼らに、感謝の思いを伝えた

い。

「ボランティアをしてみて」

焼津市立港中学校

二年 桜井 瑛麻

私が児童館のボランティアに参加したときのこと。予想以上にボランティアが大変で、楽しかった。子供たちと一緒に遊んだりすると、笑ったりして楽しかった。でもボランティアをやってみて苦労も分かった。いつも見守ってくれている人たちに感謝を伝えようと思う。

「心も町もピカピカ」

静岡市立蒲原中学校

一年 鈴木 春華

毎年行っている、町内清掃。暑い中、がんばつてそうじした。

終わった後にあたりを見渡してみたら、ピカピカになつててなんだかうれしくなつた。私の心もピカピカになつた気がした。

これからも、町内清掃に参加していきたい。

「たくさんの中生みだしたもの」

吉田町立吉田中学校

一年 若月 凜々愛

私は最初、ボランティアは何故やるのだろうと疑問に思っていました。

町の花だんの手入れボランティアに父と参加しました。その日は暑く汗がだらだらとでたり、腰を痛めたりと大変でした。でも終わつた後の達成感やきれいになつた花だんの輝きは忘れません。



## 佳作

### 「ありがとう。黄色のベストのおじさん」

吉田町立吉田中学校

一年 北川 隆太郎

いつもほどこうに立つてある黄色のベストのおじさん。そのおかげでいつも安心して登校できる。暑い時も、寒い時も、笑顔はくずさずみんなを見守ってくれている。だから、これからも笑顔いっぱいの僕たちを見守つてね。

### 「ウクライナを平和に」

静岡県立藤枝特別支援学校 中等部

二年 澤山 星夢

この平和な世界で、ウクライナではミサイルやばくだんが、おちてしまつて、ウクライナの子どもたちはつぎつぎにやられてしまい、みんなは困つている。安心して生活ができなくなつている人がいる。仲良く安心して生活してほしいと思った。

### 「ありがとうの木」

静岡県西遠女子学園中学校

一年 小杉 有香

有香の入学する姿は見れないが。

十年目の秋初めて実がなつたおじいさんが植えてくれた小さな実だつた。成長する姿を見

づ、会えない人となつた。ムクロジの木は、今日も私を見守つてくれている。

### 「海外ニュース」

静岡県立藤枝特別支援学校 中等部

三年 大石 康太

海外ニュースがちょっとむづかしそうな感じがしてあまり見てなかつたけど、ちょっと見てみたら世界ではいろんな事が起きているとそれでちょっと興味をもてたから、時間がある時は見るようになります。

## 「募金活動で得られるもの」

静岡県立三島南高等学校

二年 黒田 月乃

私たちの部活では5月に駅で募金活動を行つた。駅の構内に響く「ご協力お願ひします!」の声に多くの募金が集まつた。協力して下さつた方にお礼を言うと「頑張つてね。」と返してもらえた。心がじんわりと温かくなつた。これからもやつていこうと改めて思えた。

## 「笑顔になれるお花」

クラーク記念国際高等学校

二年 大村 心和

ありがとうとやさしい笑顔。

地域のおじいさん、おばあさんと私をつなぐ花の鉢植え。話したこともなければ、顔も知らなかつた。でもこの花がきっかけで仲良くなれた。挨拶をして、ときにはみかんをくれた。私はうれしかつた。

## 「いのち」と「ここころ」

静岡県立島田商業高等学校

二年 安江 美月

身体だけでなく心も健康でいることが大切だと強く感じる。未来への明るい期待と共に不安が伴う今、他人を優しく大切にして、支え合うことを実感し、命を大切にする心を持つことが大切だと思いました。そしてその心を持ち、行動に移していくたいと思います。

## 「大好きなおばあちゃん」

クラーク記念国際高等学校

一年 廣瀬 佳音

小さい頃 「百歳まで生きて一緒にご飯食べようね」と約束した。よく近くのスーパーに二人でお菓子を買いに行つた。今では、それがなかなかできない体になつてしまつたけど「大きくなつたね」と優しい笑顔で言ってくれる。これからも私の言葉でたくさん笑つてね。



## 佳作

### 「命の強さ」

静岡県立浜名高等学校

三年 土井 悠希

あんなに元気だった祖母が入院した。話すのも辛そうで見ているのも辛かつた。それでも頑張り退院をした。人の生命力の強さと「生きたい。」という本気を見たようだつた。将来はそんな人をそばで支えられる看護師になりたい。

### 「命のバトン」

静岡県立浜名高等学校

三年 藤田 凜

先月、十八歳の誕生日を迎えるも400mLの献血ができるようになつた。きっかけは学校でもらつたパンフレット。若年層の献血者が減つてゐることを知つた。自分の血を必要としている人に繋ぐ命のバトンは、きっと自分達の未来に繋がつっていく。

### 「再検査」

静岡県立浜松東高等学校

三年 那須 結衣

「健康診断再検査になつちやつた。」と、不安げな顔で母が言つた。肺に影が写つたらしい。現実味の無い話に思える一方で、もしもを考えると怖くなる。幸い結果は異常無しだつた。健康でいられる幸せを強く感じるこことなり、忘れられない出来事だ。

### 「いのちの価値」

静岡県立浜松東高等学校

三年 青島 加奈

猫を助けた。  
小さな子猫だつた。  
子猫は家族の一員になつた。よく食べ、よく眠り、よく遊んですくすく育つた。  
人間も同じように助けたい。いのちの価値に人間と動物は関係ない。  
今、その人を救えるのはあなただけだ。

## ハートラちゃんのお絵かき部門



小百合キンダーホーム

年中 鈴木 美緒

「ハートラちゃんと  
お散歩」

お花畠の中をハートラちゃん  
と歩いています。

小百合キンダーホーム  
年長 市川 彩乃

「ブランコしてるよ」

ハートラちゃんと一緒にブ  
ランコをしているところで  
す。



焼津豊田幼稚園

年中 薫科 心結

「ハートラちゃん！  
まつてまつて～！」

ハートラちゃんとおにじっこをしているところを描きました。すてきなおふくをいつしょうけんめい描いていました。

焼津豊田幼稚園  
年中 岡村 拓弥

「おはなのいいにおい」

ハートラちゃんと一緒にお散歩しているところを描きました。

ハートラちゃんの元気いっぱいな笑顔が上手に描けました。

伊豆の国市立富士美幼稚園

年長 佐藤 葵

「ハートラちゃんと  
お空のお散歩」

ハートラちゃんと虹の下を  
プカプカお散歩しているとこ  
ろ。





# 創設100周年特別賞

## 「下級生の手本になれる六年生」

浜松市立北浜小学校 六年 野嶋 優羽

私は今年度、下級生の手本になれる六年生になりたいと思つています。北浜小学校の最高学年として、しつかりとした行動をしたいです。

私がそう思つたきつかけが、三つあります。

一つ目は、家族のことです。私には二つ上の兄がいます。兄は私が困つていたらすぐに声をかけてくれたり、分からぬところを教えてくれたりします。お父さんとお母さんは、私にいろいろなことを経験させてくれます。私も人の役に立ち、人のためになる行動をしていきます。二つ目は、水泳部にいっしょに入っている友達のことです。その友達は、私によくアドバイスをくれます。私は泳ぎ終わつて疲れていると、自分のことでいっぱいになることがあります。だけどその友達はたくさん泳いで疲れていても、声をかけてくれます。自分のことばかりでなく、人に声をかけてくれるのはありがたいです。私もいつもよに頑張つている仲間たちや下級生に声をかけていきたいです。三

つ目は、クラスのことです。私は、女の子とはよく話すけれど男の子とはあんまり話せていません。六年生には修学旅行という大きな行事があります。そのときにあまり会話ができないかもしません。そうすると、普段からもつと話しておけばよかつたと思うかもしれません。

授業で話し合うことがあります。そのときに、男女問わずたくさんの人と公平に話せる人になりたいと思いました。

そのために頑張りたいことが二つあります。一つは助け合いで。私は自分を助けてくれる友達を見習って、困っている人がいたら声をかけていつしょに解決していきたいです。今までの感謝をこめて、これからは家族や友達、下級生などを助けたり、声をかけたりして、たくさんの人を笑顔にできるようにしたいと思います。二つ目は、下級生の手本になることです。間違った行動をしてしまうと、下級生がやつていいことだと勘違いしてしまうかもしれません。下級生に真似をされても恥ずかしくない行動をしたいです。また縦割り清掃のときにはしっかりと掃除をしたり、登校中にすれ違った地域の人にはいさつをしたりして下級生の手本になつて、憧れられるような六年生になりたいです。

このように私は、周りの人たちと助け合いをして、下級生の憧れの六年生になりたいです。そのためにも男女問わずに公平に話すようにして、楽しく笑顔を大切にして生活をしていきたいです。



# 創設100周年特別賞

## 「やさしさの大切さ」

静岡市立蒲原中学校 一年 入沢 晃太郎

ぼくは日々人に優しくすることを心がけている。なぜなら、人に優しくすると、自分は達成感を得ることができるし、相手も嬉しい気持ちになるからだ。

ぼくが小学四年生の時、コンビニに行こうと街を歩いていると、大きな荷物を持つたおばあさんとすれちがつた。大変そうだなと、思いつつ歩いていると後ろから男性がでてきて、

「お手伝いしましようか？」

と、声をかけた。おばあさんは嬉しそうに、

「ありがとね。」

と、言っていた。ぼくはそれを見て、何もしなかった自分がはずかしくなり、その場を走つて後にした。コンビニからの帰り道、この出来事についてふと、考えてみた。人に優しくすることはそんなにも自分にメリットがあることなのか。そんなにも大切にすることなのか。そんな疑問が頭にうかんだ。この二つの疑問は解決しないまま、数日がたつた。

その日の休み時間、友達が遊具にぶつかりけがをおつた。ぼくはけがをした友達を保健室まではこんであげた。保健室までけがをした友達をはこんであげたときだった。するとけがをした友達が

「ありがとう。」

そう言った。その瞬間はまるで、春の暖かい風にふかれたような気持になり、心がものすごく温かくなつた。ぼくは少しはずかしくなつて、「たいしたことじゃないよ。」

と、言つてしまつた。ふと我に返つてみるとおばあさんとすれちがつたことを思いだした。あのとき、おばあさんも男性に感謝していた。そしてきっと、あの男性もこんな気持ちになつたにちがいないと思つた。ぼくが人にやさしくする理由の一つ目はだれかにつくしたいという思いがあるからだ。そして、その思いはいつしか行動へと変わつた。

しかし、今の日本には無理してでもやさしくあろうとする人が大勢いるという事実を知つたときはすごくおどろいた。なぜ日本人はやさしすぎるのか。その疑問を解決するべくネットで調べてみた。その記事には、「親切にすること、人に優しくすることを美德と感じる文化があるから。」とかいてあつた。人にやさしくすることを美しいと感じ、そのため自分よりも相手のことを優先し、結果的に無理してしまうのだと思つた。そしてもう一つ記事を見つけた。それは、「自分を大切にした分だけ、相手も大切にできる。」というものだつた。ぼくも、この記事に賛成でまずは自分自身を大切にしてほしいと、思う。

この四年生のときの出来事がぼくの人生をかえた。最初のメリットの疑問の答え、それは相手も自分もいい気持ちになれることがだ。だが、もう一つの答えはまだ探し途中だ。この答えはこれからも探していくと思う。



# 創設100周年特別賞

「支えてくれる人がいる」

静岡県立浜松東高等学校 三年 竹原 凜

何かを失つて初めて気付くこともあるけれど、新たに見つけることもできると私は思います。私は難聴になり聴力を失つて周りの人の大切さを強く感じました。

一つ目は家族です。辛い時や苦しい時に一番の支えは家族でした。病名も原因もはつきり分からずただ苦い薬に耳の痛みに耐えている時、痛みが少しでも減るよう工夫を考えてくれたり薬の飲み忘れがないよう確認をしてくれたりしました。何気ない所でいつも支えてくれていること、生きていていることは家族の支えがあるからだと感じました。いつも同じ当たり前と思える生活ができることに感謝の気持ちを持つて生きていきたいです。

二つ目は友人です。体に見えないものだから信じてもらえないことが多くありました。ストレスからだつたので医者の方によく「気にしそぎ」など言われ、何が私にとつてストレスなのか分からず「ストレス発散しなさい」などの言葉ばかりで自分で追いこんでしまうことも多くありました。諦めないといけないのかもと感じている時、常に励ましの声や困っている時にすぐ助けてくれたり聞き取れない事があつた時は丁寧に教えてくれたりと多くの所で助けてもらいました。家で

は家族がいるけれどそばにいてもらえないわけでもないので、友達が助けてくれることが嬉しかったし、中々理解をしてくれない人もいる中で疑うことや否定などの言葉を言わず声をかけてくれることや話すスピードを落として聞きとりやすくしてくれるなどの気遣いに救われました。

三つ目は地域などの人です。学校帰り、その時たまたま工事を行つていて音も大きく人一人が通れるくらいの幅しかなく通れるか分からなかつた時、工事の方が手で通れることを伝えてくれて声だけでは確實に伝わつていなかつたと思うと何気ない動きで工事の方は覚えていられるのかは分からぬけど嬉しかったのを私は覚えています。他にも歩いていたり自転車で移動をしていたりしている時によく「おかえり」や「お疲れ様」など毎回声をかけてくださる方や学校生活を気にしてくれている方など地域の人などにも支えられていることを実感しています。本当に小さなことかもしれないけど頑張ろうと思えたり心が温まつたりしています。

人は一人で生きていけないと改めて感じました。衣食住があり、学校へ通えているのは両親のおかげで、辛い時などに支えてくれる友人がいて、安全な生活が送れるよう守ってくれる人がいて一つ一つができるには必ず誰かがいて成り立つていると思いました。私は支えてくれた方々のことを忘れずいつか誰かを支えることができる人になります。

# 赤十字を知っていますか？

赤十字の誕生とは…：

1859年、イスラム人のアンリ・デュナンは、イタリアで悲惨な戦争を目のあたりにして「傷ついたものに敵も味方もない。」と、人々と協力して、すんで負傷者を差別なく懸命に救護しました。

その後、デュナンの訴えと努力により、1864年、戦争における負傷兵の保護を定めたジュネーブ条約（赤十字条約）が結ばれ、赤十字が正式に誕生しました。現在、赤十字は、世界192の国と地域に組織され、このデュナンの人道・博愛の精神に基づいて、活動しています。



## 赤十字の事業

- ・国内災害救護
- ・救急法等の講習
- ・青少年赤十字
- ・国際活動
- ・社会福祉事業
- ・医療事業
- ・看護師等養成事業
- ・血液事業

# 青少年赤十字 (Junior Red Cross : JRC) ジュニア

## 【はじまり】

### ◎子どもたちの「気つき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

### ◎人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）はJRCを創設することを決めました。

日本のJRCは、1922年に滋賀県の守山尋常高等学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。それから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えるました。

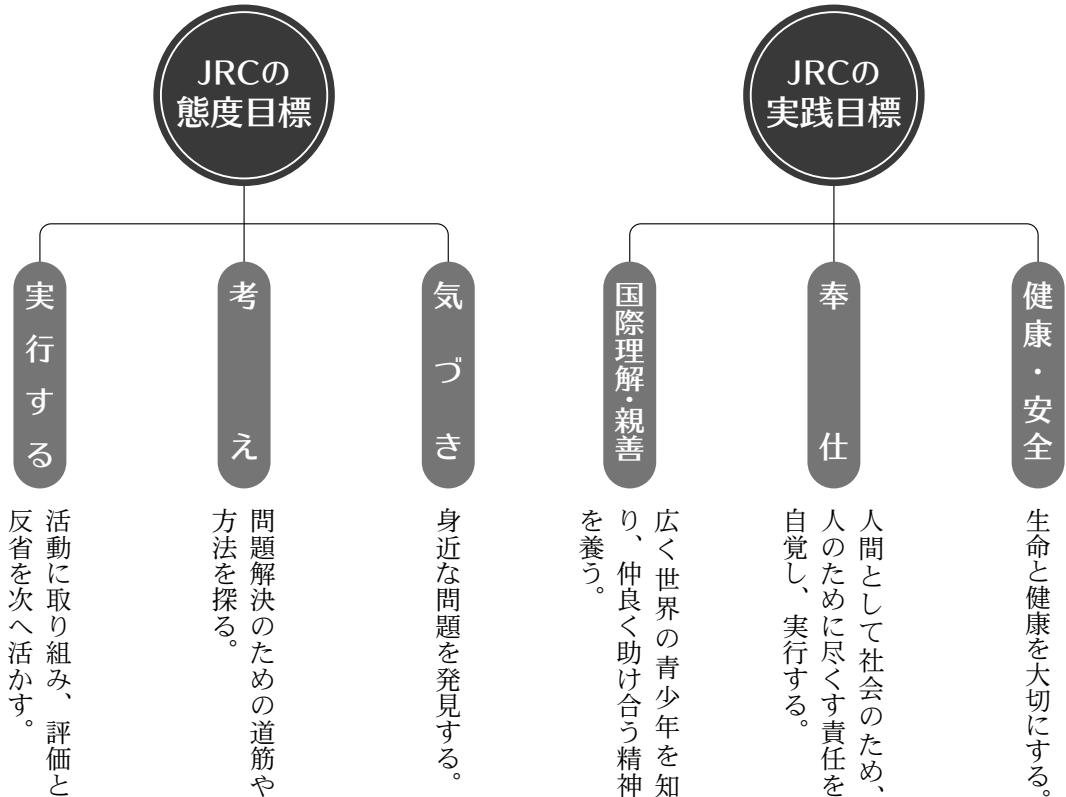
## 【青少年赤十字の活動例】

- ・あいさつ運動
- ・献血の呼びかけ
- ・環境美化の推進
- ・社会福祉施設訪問
- ・海岸清掃
- ・災害時の炊き出し体験
- ・N H K 海外たすけあい募金
- ・国際交流 など



# 青少年赤十字 (Junior Red Cross : JRC) とは

【JRCが大切にしていること】



## 【JRC 加盟・活動のメリット】

◎ 赤十字を教材に「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力（気づき）、判断力（考え）、表現力（実行する）を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実を期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワーク、活動を支援する支援金制度などがあります。

◎一緒に青少年赤十字活動に取り組んでみませんか。ご興味がある場合には、日本赤十字社静岡県支部までご連絡ください。



## 審査にご協力いただいた皆様

### 選考委員

宮城島 全美

(静岡若葉幼稚園)

佐藤 恵

(三島市立北上中学校)

榎本 義男

(静岡市立田町小学校)

富田 つね子

(静岡市立清水有度第一小学校)

山本 佳織

(浜松市立伎倍小学校)

石川 晃

(浜松市立北浜小学校)

大石 裕治

(静岡県立相良高等学校)

杉村 聰

(静岡県青少年赤十字賛助奉仕団)

## 総評

コロナウイルス感染症が流行して3年目になります。今年の感染者数は、これまでになく多い数でした。そうした中、ウィズコロナが唱えられ、コロナ対策も新たな段階を迎えるようになりました。そのような状況ではありましたが、今年も多くの方々から作品が寄せられ、本当に有り難く思っています。

今年は、日本に青少年赤十字が誕生して100年目に当たります。それを記念して、例年実施している「100文字作文」と「ハートラちゃんのお絵かき」に加えて、「青少年赤十字創設100年記念作文」を募集いたしました。応募された作品につきまして、感じたことを、作文とお絵かきに分けて紹介します。

まず作文では、日常生活の中でも見たことや体験したこと、自分の身に降りかかったことをもとに、家族や友達、地域の方々への感謝の気持ちや温かな思いが書かれていきました。また、コロナ禍での生活・人権問題や食糧・環境問題・ウクライナ人道危機にかかること等を取り上げ素直な気持ちで訴えかけているものもありました。

お絵かきでは、ハートラちゃんと私が一緒にブランコをしたり、風船で空を旅したり、小鳥やお花に囲まれたり、楽しく夢のある世界を見ることができました。

それぞれの作品から、それに取り組んでいる作者の素直で真剣な姿勢がひしひしと伝わってきました。  
ご協力本当にありがとうございました。



# Profile



日本赤十字社の公式マスコットキャラクターの  
「ハートラちゃん」です。

- **名前**  
ハートラちゃん Heartora-chan
- **住んでいるところ**  
ハートランドの森
- **誕生日**  
5月8日
- **性格**  
苦しんでいる人を放っておけない。  
おだやかな性格だが、時にすばらしい  
行動力を発揮する。
- **目標**  
ひとりでも多くの「苦しんでいる人」を  
救うこと。
- **特技**  
語学(世界中のの人、動物、植物と話せる)。
- **トレードマーク**  
生まれつきおでこにある赤い十字の模様。
- **好きなこと**  
風船ブランコに乗って空をお散歩すること。
- **好きな食べもの**  
ハート形のさくらんぼ
- **心の友**  
ハトのハートちゃん



日本赤十字社 静岡県支部  
Japanese Red Cross Society

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17 TEL 054-252-8131 FAX 054-254-5830



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。